Mon Nara

Numéro285 Association Franco-Japonaise de Nara 奈良日仏協会 FEV. 2018 2 月号

# 2018 年度総会開催―「菜宴」にて

2 月 11 日（日曜日・祝）、「菜宴」（奈良市小西町）にて、奈良日仏協会の 2018 年度総会が開かれました。出席者 22 名、委任状 43 名（会員総数 85）で総会成立を確認後、三野会長を議長に議事が進められ、次のとおり議案が承認されました。１）2017 年度活動報告、２）2017 年度決算報告、３）2017 年度会計監査報告、４）2018 年度の役員選出、５）2018 年度活動計画、６）2018 年度予算。

2017 年度決算においては、前年に引き続き三野会長の率先のもと節約に努め、7 万余円の収支プラスを得、そのうち 5 万円を 2019 年度の当協会創立 25 周年記念事業準備金として積み立てました。三木監事より、証憑がきちんと整理され正しく会計処理がされているとの報告がなされました。

役員選出では、新役員として、大内隆一、喜多幸子、薗田章恵各氏が理事に就任。2018 年度役員は、会長：三野博司、副会長：オリヴィエ・ジャメ、野島正興、事務局長：杉谷健治、事務次長：浅井直子、理事：井田眞弓、南城守、藤村久美子、中辻純子、高松洋子（会計）、上記新理事 3 名、監事：三木正義、顧問：坂本成彦の陣容となります。

新年度の計画としては、新規事業として、協会主催のフランス語講座、美術クラブを立ち上げるとともに、引き続き文化活動、交流活動に力を注いでいくことが確認されました。会報誌「Mon Nara」については、年 4 回の本誌（毎号 12 ページに増やす）と年 2 回の行事案内に分け、総ページ数をほぼ同じにするとともに、催しの案内には支障をきたさないようにすることとします。これに伴い、新年度予算として、語学講座等新規事業、交流活動強化に伴う積極予算を組むことが了承されました。なお、2017 年度決算、2018 年度予算の詳細につきましては、別紙（折込）をご参照ください。

質疑の場では、会員の高齢化や日本全体のフランス熱の鎮静化にともない、会員数が将来減ることが予想されることから、それに対しての諸策を講じる必要がある等の意見が交わされました。最後に、大内隆一、薗田章恵新理事が抱負を語り、出席会員全員から近況報告等挨拶をいただきました。（杉谷健治）

### ≪ 三野会長 2018 年度あいさつ ≫

昨年の会長挨拶においては、2016 年イギリスの国民投票およびアメリカ大統領選挙に見られた「自国優先」の声が 2017 年フランス大統領選挙ではどういう形であらわれるのだろうか、という懸念を述べました。さいわい国際協調を主張する候補者が勝利し、ひとまず混乱は避けられましたが、安定には遠いようです。さまざまな利害が対立し、分断が深まる時代こそ、緊張を緩和する役割を担う文化交流の役割は大きいと思われます。

昨年の秋、2 度フランスに出張したとき、複数の友人から、北朝鮮のミサイルの脅威のもとで日本人はどのような生活を送っているのかとたずねられました。私たちはまことに不穏な時代に生きているわけですが、このような時こそ、地道な文化活動を持続したいと考えています。奈良日仏協会は、昨年から事務局長と事務次長の二人体制となり、また今年から理事が 3 人増えて、戦力アップしました。本年もよろしくお願い致します。

## 総会後の懇親会

懇親会の部では、はじめに坂本利文会員と奥様の洋子さんによるミニコンサートが行われました。リコーダー、ヴォイスフルート、6 弦バスヴィオールを使って、映画「めぐり逢う朝」でも紹介されたサント・コロンブ、マラン・マレらルイ 14 世時代の宮廷音楽を中心に 6 曲を演奏。古楽器の柔らかな音色に包まれ、300 年前のフランス宮廷にいるような気がして、しばし現世の煩わしさを逃れ心が癒される思いがしました。が一転、アンコールは「Chevaliers de la table ronde（円卓の騎士）」という酒飲み礼讃の大衆歌となり、演奏に合わせて全員わが意を得た

りとばかり力強く（？）合唱しました。

その後、宴会の部では、三野会長の挨拶に続き、オリヴィエ・ジャメ副会長から日本語とフランス語を交え、フランス語での寒いという表現のあれこれなど軽妙な乾杯のご挨拶をいただきました。歓談タイムでは、菜宴さまのおいしいお料理とワインをいただきながら参加者同士の話も弾み、合間に、フランス人ゲストのレオニ・ファイヤーさん、ラファエル・パリーズさん、ミカエル・エヴェイエさん、ピエール・レニエさんらの自己紹介や会員有志からの活動 PR などもありました。南城理事から美術展の招待券をご提供いただき、じゃんけんの勝ち抜き戦を行う予定にしておりましたが、65 歳以上は無料入場できると分かり、急遽じゃんけんは中止して数少ない該当者に全員お渡しできたというハプニングもありました。最後は坂本顧問の音頭で「花」を全員で合唱した後、野島副会長のご挨拶で閉会しました。終始和やかなムードで、会員相互の親睦が図れたことと思います。（杉谷）

## 新任理事紹介

奈良日仏協会とのお付き合いは、阪神淡路大震災以前からで、大変古い会員です。会員として、興味のあるイベントや講座に出席して、素晴らしい方々と出会い刺激を受けています。それも理事やお手伝いをなさる方々の支えがあってのことと感謝していました。この度、私も人生の折り返し地点をかなり過ぎて、微力ながら何かできたらという気持ちで理事をさせていただくことになりました。とは言いながら、主人の診療所の事務長と奈良女子大学附属小学校の英語講師をしていますので、お役に立てるか不安ですが、どうぞよろしくお願いいたします。（薗田章恵）

2 年前に浅井先生の『失われた時を求めて』の読書会・講読会がスタートすることを知り入会致しました。三野会長の「学び直しのフランス語」にも参加していろいろな角度からフランス語、文化に親しめるようになりました。Mon Nara は毎号充実した内容で愛読しておりましたところ、今回思いがけずその編集に加わりませんかとのお話を頂き、理事に選出されることになりました。小学生のとき学級新聞の編集に夢中になったのを思い出し、また昔々かじったフランス語読本や詩集を振り返りながら、失われた時を再発見する楽しみも味わっております。どうぞよろしくお願いいたします。（大内隆一）

一昨年 12 月から「学び直しのフランス語」講座に参加させていただいております。三野先生のフランスについての深い知識にもとづく多方面に渡る興味深いお話と共に、受講生の方々の多彩なご経験をうかがうことができ、毎週とても楽しいひと時を過ごさせていただいております。肝心のフランス語は努力不足でなかなか上達しませんが、のんびり続けたいと思っています。奈良日仏協会の仕事もまだこれから教えていただくところですが、大好きなフランスと愛する奈良に関わる事で何かお役に立つ事ができれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。（喜多幸子）

## 音楽演奏者からのメッセージ

坂本利文（さかもと　としふみ）

今回 2018 年度総会後の懇親会で演奏させて頂きました。奈良日仏協会が発足した頃に富雄にあったトヨタカローラのショールームで、何度か演奏させて頂いて以来なので、本当に久しぶりのことでした。日仏協会に因んでフランスのバロック時代の音楽、特にルイ 14 世の宮廷音楽家の作品を中心に演奏致しました。聴いて頂くのはフランス文化に興味のある日仏協会の会員様だけでしたのでアットホームな雰囲気の中、リラックスして演奏することが出来ました。また一列目の席には、フランス人の方々が座っておられたので、現地で演奏している様な気分にもなりました。

アンコールとして選んだ≪Chevaliers de la table ronde≫が、来場されていたフランスの方々の、故郷の民謡だったのは予期せぬ偶然でした。そして日仏協会の皆様はさすが、歌詞カードを見ながら初見で歌ってくれましたので、大いなる盛り上がりの内にコンサートを終えることが出来ました。私の会員歴は長いのですが、今まで協会の催し物には多忙なこともあり、あまり参加して来ませんでした。そもそも私が入会したのはフランス音楽に興味があったから、と云うのが主な動機でした。今後は音楽を通して日仏協会に協力と貢献ができればと思っております。

# フランス人ゲストからのメッセージ

♦♦♦La réunion amicale de l'association franco-japonaise de Nara m'a permis de faire de nouvelles rencontres, toutes plus enrichissantes les unes que les autres. Elle a d'abord commencé par un magnifique petit concert de viole et de flûte à bec ; je n'aurais jamais imaginé qu'une flûte à bec puisse produire une aussi jolie mélodie. La soirée a ensuite continué avec un splendide buffet qui était délicieux et pendant lequel j'ai pu discuter avec beaucoup de personnes. Grâce à cette réunion, j'ai aussi rencontré de nouveaux Français avec qui je me suis très bien entendu. Pour conclure, c'était une soirée très agréable que je recommande à tout le monde.　奈良日仏協会の懇親会では、新しい出会いがあり、また交友が深められました。ヴィオールとリコーダーによる素晴らしいミニ・コンサートで始まりましたが、リコーダーがこんなにきれいなメロディーを奏でるとは知りませんでした。おいしいお料理を食べながら、いろんな人とお話しでき、フランス人の新しい友人もできました。とても素敵な時間を過ごせたので、皆にも勧めておきます。　（Michaël ÉVEILLÉ　ミカエル・エヴェイエ）

♦♦♦Comme toujours, c'est avec beaucoup de plaisir que j'ai participé à cette réunion annuelle de l'association. Chaque année, je connais un peu mieux les membres de l'association et j'ai chaque fois le sentiment de retrouver des amis. La convivialité de cet événement, le petit concert qui nous a transporté à la cour de Louis XIV, la bonne cuisine du restaurant Saien, la gentillesse de tous... tous les ingrédients étaient encore une fois réunis pour passer un excellent moment ! Merci à tous !
毎年、奈良日仏協会の総会懇親会に参加できるのをとてもうれしく思っております。少しずつ知り合いも増えて、また毎回新しい友だちができるように思います。いろんな方々との歓談、ルイ十四世の宮廷に遊ぶ心地にさせてくれたミニ・コンサート、菜宴のおいしいお料理、皆さんの心遣い・・・これらが一つになって、素晴らしい時間を過ごすことができました。皆さん、ありがとう！　（Pierre RÉGNIER　ピエール・レニエ）

リヨン第３大学からの交換留学生として、奈良教育大学に在学中のレオニ・ファイヤーさんとラファエル・パリーズさん

♦♦♦C'était ma première fois à une réunion de l'amicale franco-japonaise de Nara. La nourriture était bien évidemment délicieuse, mais le concert était encore meilleur. À la fin, quand on a chanté "Chevaliers de la table ronde", j'ai vraiment été surprise. J'étais heureuse de pouvoir parler avec tout le monde et, dès que possible, j'aimerais revenir. Merci pour l'invitation!
奈良日仏協会の懇親会は初めてでした。食べ物はもちろん美味しかったですが、一番良かったのはコンサートでした。最後に、Chevaliers de la table ronde を歌ったときには、本当にびっくりしました。みなさんと話してうれしかったし、できれば、もう一度来たいです。お呼びをありがとうございました！
（Léonie FAYARD　レオニ・ファイヤー）

♦♦♦J'ai eu le plaisir de prendre part à un évènement organisé par l'association France-Japon. Lors de la première partie de cet évènement, une démonstration musicale par deux musiciens, l'un jouant du Viol, et l'autre de la flûte, reprenant des musiques populaires de l'époque de Louis XIV, j'ai été très impressionné. D'une part par la maîtrise et la passion de chaque musicien, mais également par la fidélité aux œuvres originales, et l'on pouvait presque s'imaginer à l'époque de Louis XIV juste en assistant à cette représentation. Après cela, il y a eu une sorte de buffet, où j'ai pu discuter, que ce soit en français ou en japonais, avec plusieurs personnes de tout âge, connaître leur rapport au français, à la France, leurs impressions. J'ai ainsi pu avoir de nombreux échanges avec diverses personnes, ce fut un moment très enrichissant, et, si j'avais l'occasion de participer à une réunion de ce genre à nouveau, ce serait avec grand plaisir que j'y reprendrais part !
日仏協会の集まりに参加できうれしく思いました。最初のヴィオールとフルートの二人の演奏によるルイ十四世時代の音楽はとても印象的でした。演奏に巧みさと情熱が感じられたのと同時に、当時の音楽を忠実に再現しているので、まるでルイ十四世の時代にいて演奏を聴いているかのような錯覚に陥りました。会食中は、フランス語や日本語を交えて、いろんな世代の人とお話しでき、それぞれの方からフランスとの関わりやフランスの印象をお聞きでき、とても有意義な時間を過ごすことができました。また参加できる機会があれば、喜んで参加するつもりです。（Raphaël PARIZE　ラファエル・パリーズ）

# 2018 年度の活動についてのお知らせ

## 1）奈良日仏協会主催フランス語講座開講

4 月から「会話講座」がスタートします。少人数での和気あいあいとした会話講座を目ざしています。

□開講日時:4 月～6 月、9 月～11 月の第 4 木曜日（4/26、5/24、6/28、9/27、10/25、11/22） 午前 10:00～11:30
□参加費:全 6 回 6,000 円（一括払い） □会場:生駒たけまるホール研修室（変更の可能性あり）
□申込先:sugitani@kcn.jp（杉谷） ご興味のある方はぜひご連絡ください。
□講師ピエール・レニエ先生からのメッセージ:いろんなテーマについて話し合い、楽しみながら進めたいと思います。フランスの社会、生活、それに趣味や文化（旅行、読書、映画など）、もちろん最新の出来事も。授業の前に一つのテーマを出しますので準備をしてきてください。第 1 回目はフランスを旅行した時の思い出や、フランスで行ってみたいところとその理由。皆さんが正しく喋られるようお手伝いします。

「入門・初級フランス語講座」は、受講希望者3名以上で開講いたしますので、本人または知人で関心のある方がおられましたら、Nasai206@gmail.com （浅井）まで、ご連絡お願い致します。

## 2）美術クラブ：当協会理事 南城守さんを中心に美術鑑賞会開催

奈良日仏協会では日仏友好 160 周年記念の今年度から「美術クラブ」を立ち上げ、美術展覧会の鑑賞会を定期的に開催する予定です。今年の大きなテーマは「ジャポニスムとフランス美術」。1 月にお送りした「奈良日仏協会からのお知らせ」でもご案内しましたが、「美術クラブ」の活動の序章として、**3 月 2 日（金）午後 2 時～5 時**、京都国立近代美術館で開催中の**「ゴッホ展」鑑賞会**を行います。

□場所:京都国立近代美術館 入口玄関前に午後 2 時集合
□参加費:美術館の入館料とカフェタイムの飲食代参加者負担
□問い合わせと申込先: Nasai206@gmail.com tel : 090-8538-2300（浅井）
□内容:はじめに南城理事（絹谷幸二天空美術館顧問）から「鑑賞のツボ」を聴き、美術館内では個々自由に鑑賞。その後の「カフェタイム」では、参加者同士で感想や意見の交換をします。
□南城理事からのメッセージ:ジャポニスム（日本趣味）に心酔し日本に憧れた激情の画家ゴッホ。本展には歌川広重や渓斎英泉などの浮世絵版画の模写も出品され、当時のジャポニスム・ブームを垣間見ることができます。事前に「鑑賞のツボ」を押さえておくことは作品との対話をより深めるキーポイントとなります。作品が生み出された時代背景や画家たちの境涯などもその一つ。さらに画材や技術などの知識があれば制作の追体験をうかがうこともできるでしょう。奈良日仏協会会員には、音楽や文学、料理などの専門家が多数おられます。それぞれの垣根を越えた美術や藝術の意見交換は、鑑賞後の大きな愉しみになるのではと期待されます。そして夢はフランス美術探訪の実現です。美術・藝術に満ち溢れた、最も贅沢な心の時間を皆さんとともに生み出していきましょう。

## 3）ガイドクラブ：10 月に吉野方面散策

2015 年のガイドクラブ再開以来、浄瑠璃寺（2015）、当麻寺（2016）、大神神社（2017）を訪れ、それぞれの土地の知識をフランス語訳をまじえながら深めつつ、フランス人との交流や会員同士の懇親を楽しんでまいりました。2018 年は 10 月に吉野方面への散策を計画していますので、お楽しみに！ （次号 Mon Nara に案内掲載）

## 4）会報 Mon Nara 発行回数の変更

これまでの年 6 回から、年 4 回（2 月、6 月、10 月、12 月）の発行に変更いたします。発行回数は少なくなりますが、毎号すべて 12 頁立てでお届けし、4 月と 8 月には Mon Nara にかわって、簡単な行事案内を発送いたします。奈良日仏協会発行の印刷物が会員の皆様に届く回数と全体の頁数は、これまでとほとんど変わりません。

## 5）会員名簿の発行

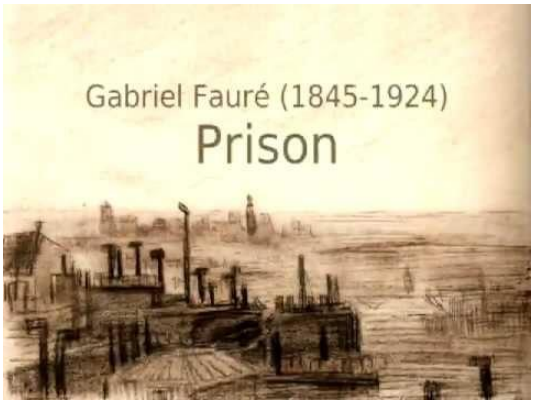
2018 年度の会員名簿を作成し、4 月に行事案内とともにお送りする予定です。記載事項に変更のある方は 3 月 31 日までに、次の1）～3）のいずれかの方法で変更内容をお届けください。 1） MAIL:sugitani@kcn.jp 2） FAX:0742-62-1741 3） 郵送:〒630-0224 生駒市萩の台 3 丁目 2-13 杉谷方 奈良日仏協会事務局。なお、お名前以外の掲載事項は自由に選択することができますので、掲載項目を変更したい方はその旨ご連絡お願い致します。

# フランス文学の庭から ‹55›

三 野 博 司（会長）

## 名句の花束

Le ciel est, par-dessus le toit
屋根の上なる大空は
（ヴェルレーヌ『叡智』1881 年）




1869 年、ヴェルレーヌは、10 歳年少のマチルド・モーテ（16 歳）と婚約し、翌 8 月に結婚します。この幸せな婚約時代を反映する詩集が、70 年に発表された『よき歌 La Bonne chanson』ですが、平穏は長くは続きませんでした。

ヴェルレーヌがパリ、モンマルトルにあるモーテ家に住んでいた 187l 年 9 月、そこへやってきてこの幸福な新婚生活を破壊したのがランボーです。ヴェルレーヌは、この美少年に魅了され、一緒に外出、深夜帰宅の生活を繰り返し、醜聞を引き起こすことになります。やがて、二人は放浪の旅に出て、ベルギーで喧嘩し、ヴェルレーヌがランボーに発砲するに至ります。ランボーは手にけがをして、二人の仲は終わり、マチルドも離婚を要求します。これが文学史上に名高い、ランボーとヴェルレーヌの愛情と破綻の顛末です。

この時期、モーテ家におけるランボーとドビュッシーの「ニアミス」というものがあります。つまりかなり接近したけれども、相まみえることはなかったというものです。ヴェルレーヌの妻マチルドの母は、ピアノ教師でした。ランボーがモーテ家にやってきた一か月後、今度は、母親に伴われた 10 歳の少年がこの家にやってきます。のちの作曲家ドビュッシーであり、彼はモーテ夫人にピアノを習うため、この家に一年間通うことになりました。

ランボーとの関係が破綻したヴェルレーヌは、そのあと 2 年間の牢獄生活を送りますが、1875 年に出獄し、81 年には詩集『叡智』が刊行されます。そのなかに標題のない「屋根の上なる大空は」で始まる詩があります。

« Le ciel est, par-dessus le toit, / Si bleu, si calme ! /Un arbre, par-dessus le toit, / Berce sa palme. »

（屋根の上の大空は／青く、静かだ。／屋根の上の棕櫚の樹は／枝を揺すっている。）

詩人が独房の小窓から外の景色を眺めています。見えるのは青空、樹木、小鳥、そして聞こえるのは鐘の音。それらは、今の自分にとって、近づくことのできない自由な生活を意味しています。いったいどうしてこんなことになったのかという嘆きで終わる詩です。

この詩に、1894 年、フォーレは「牢獄」と題して作曲しました。4 つの詩節のうち、第 2 詩節までは 4 分の 3 拍子で、メランコリックな旋律が続きますが、後半の第 3 詩節 « Mon Dieu, mon Dieu, la vie est là / Simple et tranquille. »（あはれ、彼方よ　人の世は／静かに、清く。）からは、音楽はドラマチックなフォルテに転じて高揚し、そのあと最後は深い悲しみを表すように弱音で終わります。

もう 20 年も前のことですが、奈良女子大学の私の研究室にたずねてきた女性がいました。音大を出て、フランス歌曲の歌手として活動しているとのことでした。これまで音楽の勉強ばかりしてきたので、文学の勉強をしたい、できれば奈良女子大学に編入学したいとのことでした。そのときに彼女は、このヴェルレーヌの詩のことを語りました。フォーレによって作曲されたこの歌を練習した。でも、詩を読んで、奇妙な歌詞だなあと思った。空ばかり見上げている。あとで、これが獄中で作られた詩だと知って、納得した。そのとき、歌だけではだめだ、文学の勉強もしなければならないと感じたと言うのです。

ヴェルレーヌが没したのは、パリのパンテオンのうしろにある建物で、現在は一階がレストランになっており、手ごろな価格なので、かつて学生たちを連れて行き、食事をしたことがあります。恩師のヴィアラネー先生のアパルトマンもすぐ近く、奥様が亡くなられたあと一人暮らしの先生を何度か訪問しました。

## フランス各地方の伝統菓子（6）「フランスのマカロン」

実はフランス各地にそれぞれ伝統的なマカロンがあるのです。ご存知のカラフルなマカロンは『マカロン・パリジャン』で、パリで 1930 年に生まれた新しいマカロンです。

基本の材料は卵白、アーモンドの粉、砂糖とシンプルですが、配合や作り方の違いで、様々な味や食感をしています。

マカロンはもともとイタリアのお菓子で、16 世紀にメディチ家の娘カトリーヌ・ド・メディシスがアンリ 2 世に嫁いだ際に伝え、語源はマカロニ（=生地）だという説もあります。イタリアの修道院では 791 年に作られていたといいます。

フランスでも、地方ごとのバリエーションはあるものの、多くは修道女によって作られていたようです。

伝統的なマカロンにはそれぞれの発祥秘話があり、ネットで調べることが出来ますのでご興味があればぜひその歴史に触れてみてくださいね。　（柳谷安以子）

## フランスの郷土料理（3）ブルゴーニュの「ウッフ・アン・ムーレット」

今回はワインの銘醸地ブルゴーニュ地方のお話をさせていただきます。僕がフランスを思う時、ブルゴーニュの初夏、広大なブドウ畑の鮮やかなグリーンと青空が必ず浮かびます。ボーヌ、ディジョンなどの控えめで美しい街並みも魅力的です。影響を受けたフランス料理の名店　ラ・コートドール、ラ・コートサンジャック、ラムロワーズもこの地方にあります。又、郷土料理も数多い所です。エスカルゴブルギニョン、コック・オ・ヴァン、ブッフブルギニョン、ジャンボンペルシエ等が有名です。まさに美食と美酒のエリアですね。このような手の込んだ料理もいいですが、簡単に家庭で作れるブルゴーニュ料理「ウッフ・アン・ムーレット」(œuf en meurette) をご紹介します。みじん切りの玉葱とベーコンを炒めて赤ワイン（ブルゴーニュ産のピノノワール）を加え煮詰めます。砂糖又は好みのコンフィチュールを入れて甘みを出し、少量のバターを溶かして塩コショウ。これでソースの出来上がり。半熟のポーチドエッグにたっぷりかけて完成です。ほんとに簡単でしょ？　これにブルゴーニュのチーズ（エポワス、ラミデュシャンベルタン等）とパンを添えて、料理に使ったワインで乾杯！　食卓が一気にブルゴーニュの香りに包まれますよ。それでは皆様　À votre santé !　（法人会員　北田浩久）

## 特別寄稿　ポール・ボキューズを想う

北田　浩久（きただ　ひろひさ）

名実共にフランスの英雄、フランス料理界の巨匠でありフランス料理の世界に多くの功績を残したポール・ボキューズ氏が 2018 年 1 月 20 日に他界し、多くの人が突然の訃報に喪失感と深い悲しみに浸りました。

僕が今から 25 年前フランス料理の世界に入った時に初めて聞いた 3 つ星レストランの名前が「ポール・ボキューズ」。調理師専門学校においても圧倒的な存在感、講義で教わる素晴らしい料理の数々。そうか！これがフランス料理なのか！と感動したのを鮮明に覚えています。渡仏後初めて訪れたレストランはもちろん彼の店でした。リヨンの郊外の片田舎に豪華な佇まい、日本で習ったあの料理、ホスピタリティ溢れるサービスマン、華やかな内装、すべてが想像以上でした。興奮冷めやらぬ食事の終盤に食後酒を楽しんでいたその時、僕たちのテーブルにシェフが挨拶に来てくださいました。感激のあまり言葉を失い «Merci, Monsieur ! » と言うのが精一杯でした。

それまであり得なかったこと（料理人がお客様の席へ出向いてコミュニケ

ーションをとる）の大切さを教え、世に広めた方でもあります。まだ若僧の僕たちが料理人と知ると調理場に案内し、料理のスタンバイを見せながら説明してくださいました。コックは噂通り多国籍軍であり世界中から集まっていました。本当に偉大なシェフ (grand chef) です。おおらかで、ユニークで、職人魂。そんな彼に魅了された人も多いでしょう。

そんな彼が他界し一つの時代が終わりました。そして新しい時代の幕開けです。僕自身も大きく影響を受けて繰り返し作った彼の得意料理 (spécialité) があります。「サーモンのマリネ ディル風味」「スズキのパイ包み焼きショロンソース」「トリュフ入りスープのパイ包み焼き」「ヒメジの鱗仕立て」「ブレス産の丸鶏の膀胱蒸し」等々。今後も新しい時代の料理も受け入れながらこういった骨太でクラシカルな料理法を大切にして独自の料理を研究していきたいと思います。心よりご冥福をお祈りいたします。Merci beaucoup, grand chef !!

## 会員投稿　ストラスブールとパリに滞在

西久保 美芳（にしくぼ みほ）

昨年の夏、一ヶ月と少し、ストラスブールとパリに滞在しました。ストラスブールでは 3 日間の観光、残りの 4 週間は、パリのソルボンヌ・フランス文明講座を受講し、寮生活でした。

まず、ストラスブールですが、以前知っていたフランス人がストラスブール出身ということで、立ち寄りました。左の写真のように colombage という木骨組積造りの家並がとても可愛らしいです。アルザス博物館、ストラスブール大聖堂を訪れました。アルザス博物館には、興味深い展示が多く、たとえば、アルザス地方に伝わる衣装、帽子や髪型、またお菓子の押し型の様々なもの、家具類、風俗や宗教についても、詳しい説明があり、ゆっくり時間をかけて観ていくと、新たな気づきが多くありました。路上でのパフォーマーも、フランス語・ドイツ語の両方をあやつります。この地こそ、あのアルフォンス・ドーデーの『最後の授業』の舞台となった所です。かつては、フランス語の授業が終わるという悲しい出来事があり、この土地のフランス人は複雑な経験をしていることも忘れるわけにはいかず、感慨深い思いでした。

2 日目は、コルマールに行きました。そこで撮った右のレストランの写真は、おもわず「可愛い！」と思った一枚です。正面の壁にたくさんのハート型、ニワトリ、牛、人、牛乳瓶、自転車、花々が飾られ、賑やかです。

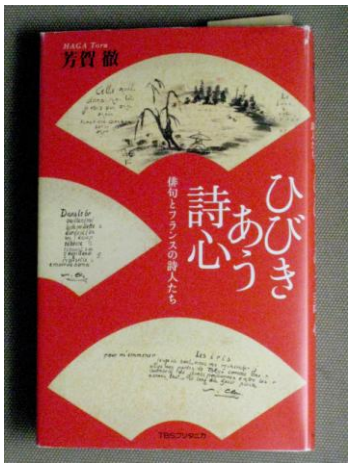
さて、パリでの生活になりますが、午前中は文法と発音の授業、午後からは週 3 回の文明講座です。フランス語の成り立ち、歴史、美術、音楽、文学、詩などの講義に自由に参加できます。その講義で扱っていた作品を実際に観るために、ルーヴル、オルセー、ロダン美術館などに、週末は入りびたりです。その他にも週末は、マルセル・プルーストのお父さんの故郷であるイリエ・コンブレーの「レオニ―叔母の家」の博物館見学とタンソンヴィルを散策したり、また別の日には、ジヴェルニーのモネの庭園を訪れたりしました。パリでは、セーヌ河岸 (plage de la Seine) で半日、散策したりベンチで本を読んだり、サン・シュルピス教会では、ドラクロワの壁画を観た後、カフェでお茶を飲んだり…と、パリらしい休日を過ごしました。

通っていた文明講座の校舎はモンパルナス墓地に近く、数年前の Mon Nara にも、パリ滞在中に出会ったムッシューにお墓を案内してもらったことを書いたのですが、今回もまた素敵な出会いがありました。授業の空き時間にモンパルナス墓地で過ごしていると、イベリオさんというムッシューが声をかけてくれました。なんでも、ここには日本人の墓も多く、その墓石に刻まれている日本語の意味を知りたい、ということでした。モンパルナス墓地のことを、仲間と共同研究しているそうです。日本人で初めてフランス語を勉強した人の墓であるとか、日本軍人の墓、パリでアーティストとして活躍した日本人の墓など。それらは、墓石も日本風または和洋折衷だったり、様々です。イベリオさんとはその後、何度もメールのやりとりをし、昨年 11 月に亡くなった父のお悔みも送ってくださいました。学校では、先生やクラスのみんなからも刺激をもらえましたし、さまざまな良き出会いの機会となりました。

会員紹介

## 異文化またはジャポニスムへの姿勢

泉 悦子（いずみ えつこ）




奈良日仏協会の会員になって5年ぐらいになるだろうか？　日仏交流について今の自分なりの関心について書いてみたい。「ジャポニスム」とか「グローバリズム」というけれど、異文化を求めるとは、精神的にはどういう意味があるのだろうか？　そんなことに疑問を抱きながら、最近一冊の本を読み直した。芳賀徹著『ひびきあう詩心ー俳句とフランスの詩人たち』(2002年・TBSブリタニカ)（右写真)。

≪欧米ハイジンたちの日本趣味（ジャポニスム）をこえたところで、ほんとうに始まっているらしい「詩心のひびきあい」。それをさらに広く深く探っていってみたいものである。文化の交流とは、発信者も受信者も互いに素知らぬ顔をし、無自覚になるところまで行ってこそ、もっとも美しい実を結ぶはずのものだから。≫　（第四章「俳句の影と響き」より）

などという一節にひかれる。大正10年から6年間、駐日大使として日仏友好の道を広げた外交官、ポール・クローデル（1868-1955）は、またすぐれた詩人でもある。日本の俳句や歌謡に惹かれ、自身も短い詩（山内義雄氏は「短唱」と呼んだ）を書き、それらを集め『百扇帖』を編んだ。在任中に収集したどどいつのみならず古い俚謡の仏訳もしている。これらのことは、当協会にはご存じの方も多いだろう。

芳賀徹氏について私が感心したところは、さすが比較文学の研究者だけあって、詩人の繊細な感覚が見事「日本」を発見してゆく道程を、こんどは日本人たる著者自身がともにまた繊細に受け止めていることである。「俳句を理解しようとする外国人」の業績を、(クローデルの日本への関心の深さを)、文学的に人間的に深く受け入れていることである。そして、俳句のみならず、言語の違いや文化を超えた「詩心のひびきあい」の次元に行き着き、「互いに無自覚になるところまで行ってこそ」真の交流だという。互いになくてはならぬものとなり、「自然」にさりげなく付き合えること。仲良くなること。グローバリズムの真の目的はここにある、と私も思った。

## 忘れられないパリのお花屋さん

中野 愛弓　（なかの まゆみ）

フランス語が話せない方（私のような）にも奈良日仏協会に入会していただければという思いで、以前理事としてお手伝いさせていただいていました頃、≪フランス生まれの手芸講座≫として、カルトナージュやフラワーアレンジの講習会を何回かお世話させていただきました。それが私にとって素敵な出会いでした。その後真剣にレッスンに通い始め、フラワーアレンジに関してはプロ資格を取得するまでに至りました。

そして娘が成人式を迎えるにあたり、日本の伝統衣装でもある着物の髪飾りは、やはり日本伝統工芸であるつまみ細工で作ってあげたいという思いが強く、何事も基本が大切で、習い事の好きな私は、つまみ細工も習い始め、先生のお人柄とつまみ細工の繊細さに魅了されてしまい、これもまた講師と販売の資格を取得し、現在つまみ細工講師として活動しています。

つまみ細工は一般的に舞妓さんや成人式、七五三等の髪飾りとしてご存知の方もいらっしゃるかと思います。日本の伝統も生かしながら、フラワーアレンジで学んだ色彩を生かして、お洋服等にも合うアクセサリーとしても楽しんいただけるような作品作りを指導しています。

30年程前、初めて訪れたパリで入ったお花屋さんの日本にはない色使いに感動した思いが今でも忘れられず、それを日本の伝統工芸でもあるつまみ細工にも生かして、花嫁さんのブーケ作りや、成人式の髪飾りを作られる生徒さんのお手伝いをさせていただいている今に、幸せを感じています。

## 「徒然フランス音楽メモ」（１）《クラヴサン詩人 大クープラン》

学生時代から音楽好きになり、市民オーケストラや室内楽合奏を楽しんできた日曜音楽家です（今は毎日が日曜日）。2017 年の奈良日仏協会総会後の懇親会では、フランス音楽を弦楽トリオで演奏させて頂きました。このたび、「音楽」に関する連載を、との要望を受け、無謀を顧みず一愛好家の徒然草として思うことを書かせて頂くことにしました。

フランス音楽と言いますが､そういうものはあるのでしょうか？　演奏会、レコード、映画で聴いたり合奏したりの経験を通して、ここにはやはり一つの世界あるいは魅力が存在するのは明らかであります。ではそれにはどんな特徴があるのでしょうか。まず注目したいのが音楽史で《大クープラン》と呼ばれるフランソワ・クープラン（1668-1733）です。250 年に亘って音楽家を輩出した家系にあってルイ 14 世とルイ 15 世二代に仕えた作曲家です。その最大の遺産は 27 のオルドル ordre に含まれる 200 曲を越すクラヴサン曲といわれ、《クラヴサン詩人》とも称されています。一曲ずつに《とげのある女》《神秘なバリケード》《心地よい恋やつれ》といった題名が付いていて《酔っ払いと猿と熊によって起きた一座の無秩序と混乱》などというのもあります。variété に富むこれらの曲を我家の《クラヴサン》（＝電子ピアノ）で弾いてみるのは（私の場合時間軸が伸縮＝初級相対性原理）、じつに愉しいことなのです。

ほぼ同時代のバッハの組曲とはずいぶん違います。昨年の懇親会で演奏しました器楽曲であるトリオ・ソナタ《コレッリ賛》も詩文と一体だったのを思い出し、ここでいきなり、フランス音楽の原点には《詩》が位置しているのではないか、さらに、交響詩はあるが交響曲といえるものはあるだろうか、ドイツ音楽は構造と意志、イタリアはアモーレとカンターレ、対するフランス音楽は詩のように人や自然を自由に描くのが特徴ではないか、こうした命題が浮かんで来るのであります。　（大内隆一）

## 技術で斬る仏文学：『パルムの僧院』デジタル通信の「はしり」？

スタンダールの作品『パルムの僧院』中のある場面に、以前から大いなる魅力を感じていたのですが、これが今から考えれば、正しくデジタル通信のさきがけに違いないと気づき、今回紹介させていただくことにしました。主人公ファブリスは、午前 1 時頃ファルネーゼ塔からひろびろとした地平線を眺めていると、別の塔の上から小さいながら強い光をみとめます。

**Tout à coup il remarqua que cette lueur paraissait et disparaissait à des intervalles fort rapprochés. (...). Il compta neuf apparitions successives. Ceci est un I, dit-il ; en effet, l'I est la 9e lettre de l'alphabet. Il y eut ensuite, après un repos, 14 apparitions : C'est un N ; puis, encore après un repos une seule apparition : C'est un A ; le mot est Ina.**

**INA PENSA A TE　Evidemment : Gina pense à toi.**

とつぜん、彼はこの光が短い間隔をおいてパッパッと明滅していることに気づいた。（…）。数えると、つづけさまに九つ光った。（これは I だ）と思う。じっさい、I は字母の九番目である。それから、ちょっと間をおいて、十四光った。これはNだ。やがてまたちょっと休止して、こんどはただ一つだけひかる。これはAだ。文字は Ina である。こうして少しずつ間をおいてつづけられる光が、つぎのようなことばになるのを知ったとき、彼の喜びと驚きはどんなであったか！INA PENSA A TE. あきらかに、Gina pense à toi !（ジーナはあなたのことを思っている）だった。

映画『パルムの僧院』(1948 年、主演ジェラール・フィリップ) より、ファルネーゼ塔

作者がこれを書いたのは、やがて電気が発見されモールスが電流の断続音でデジタル的通信を発明するに至る 1850 年頃より前であったはずです。また、灯りは多分「鯨油ランプ」で蝋燭ではなかったようです。この通信の発信者は、若いファブリスを愛してやまないパルム公国のジーナ・サンセヴェリナ侯爵夫人だったのです。それ以前まで、殺人の罪により牢獄に入れられているファブリスの生死は分からなかったのです。

小説ではその後もこの光通信で「愛の会話」を続けるが、その方法は一層改良され、能率が良くて洗練された方法へと進展、たとえば、「Z」を送信するのに 26 回の点滅はいかにも無駄で誤謬が起こりやすいので、モールス符号のように短点と長点のセット符号、また、第三者に傍受される危険もあるので規則的に無意味な「乱数」を入れたり、各字の背番号を変えたりと、まるで近代戦での軍用通信か、最近のデジタル通信で考案されている自由略号に似たものまで考案して遠隔会話をしていたようです。　（中浦　東洋司）

# 奈良日仏協会・会員主催の各種講座案内 （2018 年 2 月）

| 曜 | 時 間 帯 | 場 所 | 講 師 | 内 容、教科書 | 問合わせ先 |
|---|---|---|---|---|---|
| 月 | **9:45～11:45** | 生駒市コミュニティセンター 2 階会議室 | 三野博司 | 「学び直しのフランス語」 もう一度しっかり学びたい人向けです。ことばの仕組みや表現を学び、フランス文化の奥深い魅力を探ります。 | mino.hiroshi @gmail.com（三野） |
| 火 | **12:30～14:00** | 奈良フランスクラブ 〒630-8421 奈良市藤原町 1028-35 | オリヴィエ・ジャメ | Conversation, expression, écrit et écoute Echo 1 (CLE International) A la page 2016 (Edition Asahi) | Clubfrancenara @kcn.jp 0742-62-2770（ジャメ） |
| 火 | **19:00～20:30** | 同上 | オリヴィエ・ジャメ | **仏検の準備専門的講座** 毎回、仏検 3 級と準 2 級の準備するため様々な練習 テキスト 駿河台出版社 | 同上 |
| 水 | **10:00～11:30** | 同上 | オリヴィエ・ジャメ | フランス語 Communication 入門 テキスト Nouveau Spirale スピラル(Hachette) | 同上 |
| 水 | **12:30～14:00** | 同上 | オリヴィエ・ジャメ | **仏検の準備専門的講座** Echo B1 (CLE International) | 同上 |
| 木 | **12:30～14:00** | 同上 | オリヴィエ・ジャメ | Echo 2 (CLE International) Préparation DAPF-DELF | 同上 |
| 木 | **19:00～20:30** | 同上 | オリヴィエ・ジャメ | Echo 1 (CLE International) **毎回仏検 3 級、準 2 級の準備**、DELF A1, A2 | 同上 |
| 金 | **10:50～12:50** | 同上 | オリヴィエ・ジャメ | Echo 2 (CLE International) Bande dessinée : Tintin Objectif Lune | 同上 |
| 土 | **毎月 2 回 13:30～15:30 (2/17…)** | 同上 | オリヴィエ・ジャメ | Interprétation-Traduction | 同上 |
| 土 | **毎月 1 回 11:00～13:00 (3/17)** | 同上 | オリヴィエ・ジャメ 浅井直子 | 漱石が詠んだ俳句のフランス語訳に挑戦しています。「秋立つや一巻の書の読み残し」など、漱石晩年期の句を扱います。 | 同上 0743-74-0371（浅井） |
| 日 | **毎月 2 回 10:30～12:30 (2/25; 3/4, 18…)** | 同上 | オリヴィエ・ジャメ | 会話、作文、ヒアリング、聞き取り、書き取り、仏検読書/ DELF/DALF " | Clubfrancenara @kcn.jp 0742-62-2770（ジャメ） |
| 日 | **偶数月第2日曜 14:00～16:30 (4/8, …)** | 同上 | オリヴィエ・ジャメ | Mélodies de Claude Debussy 「ドビュッシー歌曲」 | 同上 chemin-de-fer1435mistral@docomo.ne.jp（水谷） |
| 日 | **毎月 1 回 14:00～16:00 (2/25, …)** | 同上 | オリヴィエ・ジャメ | Séance de lecture et de discussion (Articles du *Nouvel-Observateur*) | Clubfrancenara @kcn.jp 0742-62-2770（ジャメ） |
| 火 | **毎月 1 回 14:30～16:30 (2/20 )** | 生駒市コミュニティセンター 2 階会議室 | 浅井直子 | プルースト講読会:『失われた時を求めて』から抜粋したフランス語のテクストを精読します。「植物」に関わる断章を読んでいます。 | Nasai206@gmail.com 0743-74-0371（浅井） |
| 火 | **毎月 1 回 14:30～16:30 (3/6 )** | 生駒市コミュニティセンター 2 階会議室 | 浅井直子 | プルースト読書会:『失われた時を求めて』の岩波文庫版を用いて、参加者が分担箇所を要約・コメントしながら読み進めます。読書好きな方歓迎！ | 同上 |
| 火 | **毎月第 2 火曜日 13:30～15:00** | 京橋 studio-J | 梨里香 | フランス語で歌うシャンソン | studioj-nktj @occn.zaq.ne.jp 06-6922-6502（中辻） |
| 木 | **毎月第 2・4 木曜 18:30～20:00** | 京橋 studio-J | 中辻純子 | やさしいレクチュール 中級以上の方対象 簡単な短編やニュースを講読します。 | 同上 |
| 火 | **毎月第 2・4 火曜 10:30～12:00** | 京橋 studio-J | 中辻純子 | やさしいフランス語① 日常会話からフランス語の基礎と文法を学びます。 | 同上 |
| 水木土 | **毎月第 4 水木土 10:30～12:30** | エコール・タンタン （奈良市西登美ヶ丘） | 柳谷安以子 | フランス各地の地方菓子を月替わりで2品作ります。他、地方料理コース、パリのお家ごはんコースもございます。 | aiko.tantan@ezweb.ne.jp 0120-44-0341（柳谷） |

# 2018 年度の講座紹介

## 「仏検の準備的専門講座」（奈良市藤原町「奈良フランスクラブ」にて）

☆毎週火曜 19:00～20:30 毎回仏検 3 級と準 2 級の準備するため様々な練習をします。テキストは駿河台出版社。
☆毎週水曜 12:30～14:00 毎回仏検 2 級と準 1 級の準備するため様々な練習をします。テキストは駿河台出版社。
フランス語上級　Echo B1（CLE International）、Vidéo 教材使用。
☆毎週木曜 19:00～20:30 毎回仏検 3 級と準 2 級の準備するため様々な練習をします。
フランス語中級　Echo 1（CLE International）、DELF A1, A2

## 「フランス語中級」（毎週火曜日 12:30～14:00　奈良市藤原町「奈良フランスクラブ」にて）

教科書は、「À la page」（朝日出版社）、「Echo 1」（CLE International）を使用。文法と会話の練習をし、ネットでの情報が、学んでいる章の理解を深めてくれます。仏検を目指す方には、講師からそのポイントを学べます。熟女 4 名で、進むことより、じっくり学ぶことを大事にしています。（井田眞弓）

## 「ドビュッシー歌曲」（偶数月第 2 日曜 14:00～16:30　奈良市藤原町「奈良フランスクラブ」にて）

フランス歌曲研究会の創立者である古澤淑子女史編集による全音楽譜出版社のドビュッシー歌曲集 1 巻・2 巻を順に勉強しています。現在は第 1 巻の中程です。フランス語のみならず、多方面に精通しているジャメ講師の興味深い指導を受ける事ができるクラスです。講師の発音に続いて単語を一語づつはっきり発音します。それからひとつの句へ、さらにフレーズへと進みます。クラスでありながら、個別に発音指導を得られる好機です。その詩を歌うことも可能です。デスクから詩の朗読へ。お薦めの講座です。（水谷雅男）

## 「学び直しのフランス語」（毎週月曜 9:45～11:45　生駒市セイセイビル 2 階会議室にて）

そのむかしに習ったフランス語の感動をもう一度味わいたい。長年フランス語を学んでいるけれど、いまひとつ文法がよくわからない。ちょっとした会話、フランス文化、文学など、フランスに関することを少しずつかじりたい。そんな人向けの講座です。三つの柱を立てています。①フランス語文法参考書の超ロングセラー『新リュミエール』（森本英夫・三野博司共著）を教科書として文法の復習。②フランス語会話の書取り（dictée）とミニ会話練習。③フランスのやさしい詩や物語の講読。あと、ネットから拾ったフランス紹介映像などを織り交ぜて、楽しく学んでいます。

## 「プルースト読書会」（第 1 又は第 3 火曜 14:30～16:30　生駒市セイセイビル 2 階会議室にて）

今年で 3 年目になりますが、『失われた時を求めて』を岩波文庫の吉川一義訳で読み進めています。2018 年は第 5 篇『囚われの女』と第 6 篇『消え去ったアルベルチーヌ』を読みます。参加者は各自、分担箇所についてのコメントを述べていきます。この小説の語り手は「私の読者は自分自身のことを読む読者」だといいます。読書の愉しみと怖さを、ともに味わってみませんか？　途中からの参加も歓迎です。
☆教材：岩波文庫『失われた時を求めて』（吉川一義訳）各自購入、毎回プリント配布。

| | |
|---|---|
| 第 1 回 6 月 5 日 ：『囚われの女 I（1）』 | 第 5 回 12 月 4 日：『囚われの女 II（3）』 |
| 第 2 回 7 月 17 日：『囚われの女 I（2）』 | 第 6 回 1 月 15 日：『消え去ったアルベルチーヌ（1）』 |
| 第 3 回 10 月 2 日：『囚われの女 II（1）』 | 第 7 回 2 月 5 日 ：『消え去ったアルベルチーヌ（2）』 |
| 第 4 回 11 月 6 日：『囚われの女 II（2）』 | 第 8 回 3 月 5 日 ：舞台映像鑑賞 |

## 「プルースト講読」（第 3 又は第 5 火曜 14:30～16:30　生駒市セイセイビル 2 階会議室にて）

フランス語の原文で *À la Recherche du temps perdu* からの抜粋を読みます。2018 年度は「建築」「教会」のテーマに関する文章を採りあげ、小説全体の主題や構造との関わりを考察します。

| | |
|---|---|
| 第 1 回 5 月 29 日「教会を作るように本を構築する」 | 第 5 回 10 月 16 日「アルベルチーヌのアイスクリーム談義」 |
| 第 2 回 6 月 19 日「コンブレーの教会のステンドグラス」 | 第 6 回 11 月 20 日「母と訪れたサン=マルコ寺院」 |
| 第 3 回 7 月 31 日「地下礼拝室のクリスタル製ランプ」 | 第 7 回 12 月 18 日「パドヴァのジョットの礼拝堂」 |
| 第 4 回 9 月 18 日「≪エッサイの樹≫のステンドグラス」 | 第 8 回　1 月 29 日 映画鑑賞 |

## 「知って味わうフランス地方菓子」（第 4 水木土 10:30～12:30　奈良市西登美ヶ丘「エコール・タンタン」にて）

洋菓子店で並ぶことの少ないフランス地方菓子はシンプルですが、素材の美味しさと温かさが伝わります。毎回 2 種類のお菓子を素材の説明・歴史・風土などもご紹介しながら少人数で進めます。レッスンの後はお菓子を囲んでティータイム。ご自身で作ったその月のケーキやタルト（一人一台）はお持ち帰りいただきます。

## 第 138 回 フランス・アラカルト「宝塚歌劇とフランス」(3/8) 案内

✤日時：2018 年 3 月 8 日（木）15:00～17：00　✤会費：会員 500 円、一般 1000 円
✤**会場：奈良市西部公民館 4 階第 2 会議室（生駒セイセイビルから変更になりました）**
✤問い合わせと申込先： Nasai206@gmail.com　tel : 090-8538-2300（浅井）
✤講師：薮下哲司（やぶした てつじ）さん。
（講師紹介）映画、演劇評論家（元スポーツニッポン新聞文化部特別委員）。甲南女子大学非常勤講師。毎日文化センター「宝塚歌劇講座」講師。「宝塚イズム」（青弓社刊）編集主幹。日本映画ペンクラブ会員。著書に「宝塚伝説」「宝塚歌劇支局」などがある。

ロベスピエールの半生を描いた新作「ひかりふる路」宣伝写真。©宝塚歌劇団

✤藪下さんからのメッセージ：宝塚レビューの第一作「モン・パリ」の昔から宝塚歌劇とフランスは切っても切れない関係があります。宝塚史上最大のヒット作もフランス革命を背景にマリー・アントワネットの生涯を描いた「ベルサイユのばら」です。「ベルばら」のヒット以降、フランス革命前後の時代を描いた作品は数多く、いまやフランス革命のことはフランス人よりも宝塚ファンの方が詳しいのではないかというほど。シャンソンを最初に日本に広く紹介したのも宝塚歌劇です。そんな宝塚歌劇とフランスの親密な関係を、DVD による映像資料も含めて、さまざまな作品を通して紹介します。

## 第 46 回 奈良日仏協会シネクラブ例会（2/25）案内

★2 月 25 日（日）13:30～17:00 ★奈良市西部公民館 5 階第 4 講座室 ★プログラム：ジャン＝ピエール・メルヴィル監督『仁義』(Le Cercle rouge, 1970 年, 140 分) ★参加費：会員無料、一般 300 円 ★問合わせ：Nasai206@gmail.com（予約不要） ★前回の『パリの灯は遠く』とはまたひとあじ違ったアラン・ドロンの魅力を引きだしているジャン=ピエール・メルヴィルの監督作品をとりあげます。映画の原題を直訳すると「赤い輪」。「人はそれと知らずに必ずめぐり会う。たとえ互いの身に何が起こり、どのような道をたどろうとも、必ず赤い輪のなかで結びあう」（ラーマ・クリシュナ）の言葉が、映画の冒頭で紹介されます。この映画に登場するのは「いわくつきの男」たちばかり。彼らの宿命的な出会いと行動が、短い台詞と映像を通じて語られています。（浅井）

## ≪2017 年度第 6 回理事会報告≫　……事務局

日時：2018 年 1 月 18 日（木）15:00～17:20
場所：菜宴　出席者：三野、ジャメ、野島、井田、中辻、藤村、浅井、髙松、杉谷
議題 1. 11/16 理事会後の活動：第 45 回シネクラブ例会『パリの灯は遠く』(11/26)、第 137 回フランスアラカルト特別篇「ワインパーティ」(12/7) 。議題 2. 今後の行事：第 46 回シネクラブ例会『仁義』(2/25)、第 137 回フランスアラカルト「宝塚歌劇とフランス」(3/8)。議題 3. 2017 年度役員候補案承認。議題 4. 年次総会(2/11) 開催に向けて審議：決算報告は 2017 年度から総会懇親会と秋の教養講座も特別会計にし協会補助のみ計上する。2018 年度活動計画は、語学講座、美術クラブ、Mon Nara の発行回数の変更について説明。議題 5. Mon Nara。議題 6. その他：「ゴッホ展」鑑賞会。2017 年度の会員数確定：86 件 90 名。
次回理事会 3 月 15 日（木）15：00～16：30

## 会員通信 ✉ ✉ ✉ ✉

★3 月 2 日（金）18 時開演「三木康子ピアノ演奏会」大阪市東成区中道 玉初堂 6 階ホール 2000 円　090-3038-4760（三木）
★3 月 25 日（日）13 時開演「ミューズの下僕」藤村久美子と仲間たちの演奏会 1000 円（要予約）　090-8751-6408（藤村）
★4 月 11 日（水）14 時開演「シャンソン ガラコンサート」梨里香出演 豊中市立文化芸術センター 090-9614-6477（中辻）
★5 月 18 日（金）19 時開演「ルネサンスの聖と俗」（仮題）オルティスコンソート出演　3000 円 カトリック奈良教会
http://www4.kcn.ne.jp/~ortiz/（坂本）

## 編 集 後 記

☆昔、南仏のエクス・アン・プロヴァンスに滞在していた時のこと、帰国前の旅仕度で慌ただしくしていた 1 月のある日、広場の花屋さんの前を通りがかると、鮮やかな黄色が鈴なりになっているのが目に入り、思わず足が止まった。冷たいミストラルが吹く日だったが、その明るい黄色の花のまわりには特別な気配がただよっていた。「ミモザだ！」花の名が出てくるまでしばらくの間、ふわふわした不思議な空気に包まれて、少し夢見心地になった。以来、南仏というと、真冬に春を先どりして伝えてくれるミモザ (mimosa) の可憐な花が思い浮かぶ。今ごろは野山に黄色い房がゆれているだろうか。
★**お詫び**：Mon Nara 2017 年 11-12 月号 4 頁の≪2017 年度ガイドクラブ「大神神社散策」と「利き酒体験」≫の報告記事の文中に、「追手前大学前学長柏木隆雄さん」とありますが、正しくは「大手前大学前学長柏木隆雄さん」です。編集ミスにより、誤った大学名が記されてしまいましたこと、謹んでお詫び申し上げます。　(N. Asai)

◆当協会では**会員を募集**しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。
◆本誌への投稿、特に新鮮で多様な話題、ホットなフランス情報などを歓迎します。誌面の都合で意味を極力変えずに表現を変えさせていただくことがあります。次号は**5月 31 日**が原稿締切日です。

**Mon Nara　2018 年 2 月号　numéro285**
**奈良日仏協会　Association Franco-Japonaise de Nara**
**HP：**http://www.afjn.jp　**E-mail：**nara.afj@gmail.com　**FAX：0742-62-1741**
**〒630-8226 奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F 野菜ダイニング菜宴[郵便物のみ] 発行責任者：三野博司**